

世界ロボット大会での契約額が100億元に

8月20日から25日にかけて、北京市人民政府、工業・情報化部、中国科学技術協会の共同主催のもと、中国電子学会、北京市経済・情報化局、北京経済技術開発区管理委員会が実施した「2019年世界ロボット大会」が、北京亦創国際エキシビションセンターで開催された。



同大会では、世界工学団体連盟ロボット・自動化学会など22の国際機関の支援を受け、中国内外から300人を超えるトップレベルの専門家と企業トップが講演を行い、先端の科学技術成果が発表された。また、大会には20を超える国・地域の企業約180社が700点を超える製品を出展した。この中には各種ロボットや先端部品が含まれ、ABB、安川電機、瀋陽新松、UBTECHといった世界のロボット界を代表するリーディングカンパニーがそろって出展した。大会は、4部門に分かれてコンテストが30数回行われ、ブレイン・コンピュータ・インターフェース（BCI）技術を利用した脳波で制御するロボット、共存・共同・認知型ロボット（Trico ロボット）、ロボット工業デザイン、青少年ロボットデザインなどの内容を競った。



8月26日時点のデータによると、大会には30万人近くの来場者があり、関心の高さが伺われた。4部門に分かれて行われたロボットコンテストには20数ヵ国・地域から1000以上のチームが参加した。会期中に企業が締結したプロジェクト契約額は100億元（約1472億円）に迫ったという。

工業・情報化部の王志軍副部長は閉幕式でのあいさつで、「世界ロボット大会は世界のロボット分野における最も名声の高い総合的イベントだといえる」と述べた。

（曹 雪飛）